

オンライン学習サービス「Schoo」による遠隔教育の普及

取組のあらまし

取組団体 鹿児島県 奄美市

取組内容 離島における学習機会格差の是正と人材育成基盤の強化を目的に、オンライン学習サービス「Schoo」を導入。2017年の市内の試行導入を経て、2021年には、島内5市町村（奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町）と株式会社 Schoo で包括的パートナーシップ協定を締結し、全島の住民・事業所向けに無料開放した。体験コーナー、合同研修、交流会など多様な促進策により、学び直し・スキル習得の環境整備が進む。

推進体制 2名（令和7年度）

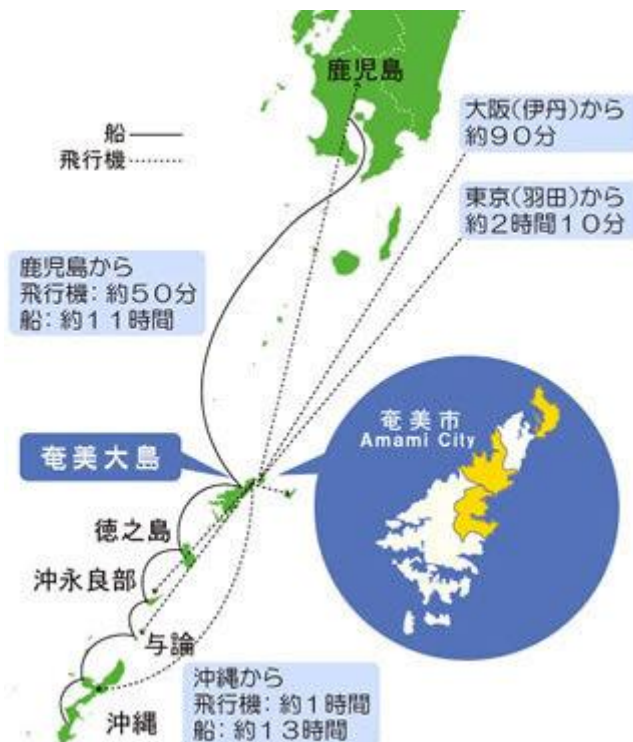
予算等 0円（令和7年度）

1 奄美市と島内5市町村の概要

(1) 奄美市の概要

人口	40,239人	令和7年1月1日現在（住民基本台帳人口）
職員数	454人	令和6年4月1日現在（一般行政部門）
総面積	308.08 km ²	令和7年10月1日現在（国土地理院「全国都道府市区町村別面積調」）

図表 1 奄美市の位置図

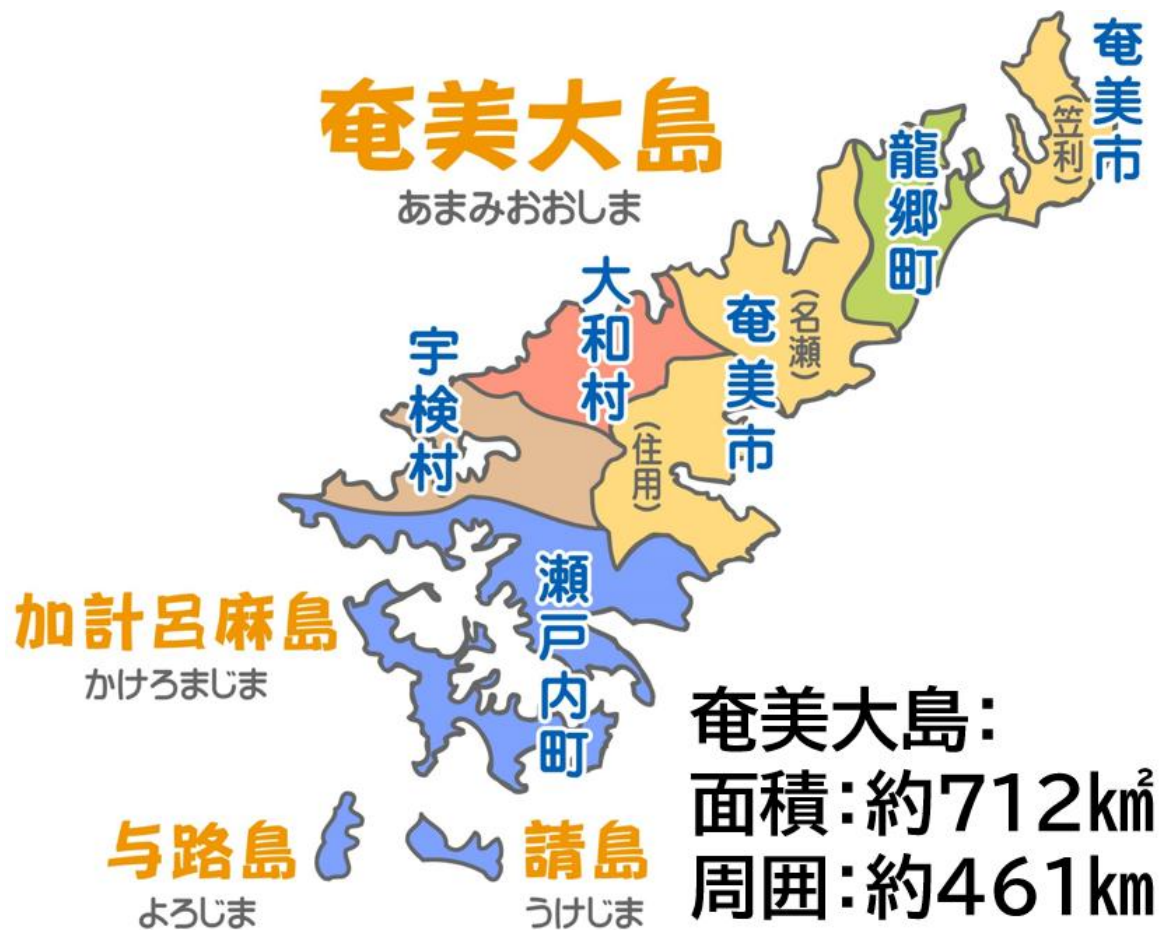


出所：奄美市ホームページ

(2) 島内5市町村（奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町）の概要

人 口	57,325 人	令和7年1月1日現在（住民基本台帳人口）
	奄美市 40,239 人	瀬戸内町 8,084 人 宇検村 1,604 人
	大和村 1,384 人	龍郷町 6,014 人
総 面 積	712.42 km ²	令和7年10月1日現在（国土地理院「全国都道府市区町村別面積調」）
	奄美市 308.08	瀬戸内町 137.12 宇検村 97.22 大和村 88.22 龍郷町 81.79

図表 2 奄美大島の位置図



出所：奄美市提供資料

2 取組の背景・目的

(1) 島内における学びの課題とオンライン学習の導入の必要性

奄美市は離島・島嶼地域に位置し、人口減少・少子高齢化の進行や、都市部との学習機会の格差といった構造的な課題を抱えている。特に ICT 分野を中心とした人材育成や、若年層の U ターン・I ターン促進に向けた環境整備は重要性が高く、住民が時間や場所に捉われず学べる環境づくりが求められていた。こうした課題認識を背景に、奄美市は「フリーランスが最も働きやすい島化計画」（2017 年開始）において新しい働き方と学びの推進を掲げ、オンライン学習の本格活用に向けた方向性を整理してきた。

この一環として、奄美市は 2017 年度からオンライン学習サービス「Schoo」（以下、「Schoo」という。）を試行的に導入し、100 アカウントを住民に公募配布した。試行導入を通じて、住民の学び直し需要やオンライン学習の受容性が確認され、離島における学習環境の格差を補完する手段として有効性が示唆された。これらの知見は、オンライン学習を地域施策として位置づける上で重要な成果となった。

(2) 包括的パートナーシップ協定の締結

こうした取り組みの流れの中で、島内 5 市町村は、2021 年 5 月 18 日に株式会社 Schoo（以下、「Schoo 社」という。）と包括的パートナーシップ協定を締結した。本協定は、当時のコロナ禍によるオンライン学習・オンライン研修の重要性が高まるなか、島内全住民・全事業者に等しく学習機会を提供することを目的として締結されたものである。

協定締結に至る経緯としては、奄美市の 2017 年度試行導入によりオンライン学習の有効性が一定程度実証されていたこと、学習機会の拡大・情報活用能力の向上・事業所の人材育成の課題が共有されていたことが挙げられる。

(3) オンライン学習の無料開放

こうして、オンライン学習環境を広く浸透させるための施策として、Schoo のプレミアムプランを住民・企業向けに完全無料で開放するに至った。

この取組は、離島という地理的制約を超え、住民が主体的に学び、スキルを磨き、仕事やキャリア形成につなげるための環境整備を目的とするものであり、地域の活力維持や DX 人材の育成に寄与する基盤施策と言える。

3 取組内容

(1) 「Schoo」の概要

奄美市が導入した Schoo のサービスは、通常は有償で提供されるオンライン動画学習サービスを、奄美市に住所を有する個人および市内事業所向けに無料提供するというものである。

具体的には、授業数約 8,500 本を誇る録画授業および生放送授業が対象となり、スマートフォンやパソコンから、時間・場所を選ばずアクセスできる環境が整っている。

会員プランとして、通常は月額 980 円／年額 9,800 円であるプレミアム会員プランが住民向けに無料で提供されており、生放送の受講・講師への質問・録画授業の見放題・倍速再生などが利用可能である。また、法人・事業所向けには、研修プログラムの作成や管理者機能、オリジナル動画の共有といった機能を付与したアカウントも無料で配布されている。

このようなサービス概要を背景に、住民・事業所双方に対して、本サービスを活用した学び直し・スキルアップ・組織学習の環境づくりを進めてきた。

(2) 利用促進に向けた創意工夫の取組

Schoo の利用を住民・企業に浸透させるための多様な工夫を実施している。以下では、奄美市の公式ホームページで紹介されている主な取組を整理する。

ア 体験コーナーの設置

奄美市では、公共施設「WorkStyle Lab」内に、Schoo を無料で体験できるコーナーを設け、住民・来訪者が実際にサービスを操作・体験できる環境を整備した。

この場では、端末や通信環境を整えたうえで、まず触ってみたり、雰囲気味わう体験を提供し、オンライン学習のハードルを下げる狙いがある。さらに、同施設がコワーキングスペースとして機能しているため、単に視聴するだけでなく、他利用者との交流・学び合いといった副次的な効果も期待できる。

図表 2 体験コーナー



出所：奄美市ホームページ「オンライン学習サービス『Schoo』体験コーナーの設置について」

イ 島内5市町村合同新卒・若手向け研修の実施

奄美市を含む島内5市町村では、Schoo を活用した新規採用者・若手職員向けの合同研修を実施している。本研修は、オンライン学習コンテンツを中心に据えつつ、対面でのディスカッションや基調講演、交流会を組み合わせた構成となっている点に特徴がある。

令和7年度の研修では、まずオリエンテーションとして研修概要説明やアイスブレイクが行われ、その後、Schoo で提供される4本の動画を順次視聴しながら学習を進める。具体的には、「タスク管理」「ストレス対処」「偽情報から身を守るポイント」「内省の習慣」といったテーマの動画を視聴し、個人ワークやグループディスカッションを通じて内容の理解を深める構成となっている。

これにより、Schoo のコンテンツを学ぶだけでなく、島内の若手層が相互に繋がり、学びとネットワークづくりの双方を促進する仕組みと言える。

ウ オンライン学習「Schoo」ユーザー交流会

Schoo ユーザーの裾野を広げるため、奄美市ではオンライン学習「Schoo」ユーザー交流会と称したイベントを開催している。このイベントでは、Schoo の人気授業紹介や島内でSchoo を活用し仕事や暮らしに活かしているゲスト起業家によるトークを行い、参加者同士の交流会も実施された。参加無料・定員制であり、当該取組の認知拡大・参画促進・学びのモチベーション醸成を目的としている。

これらのイベント型施策は、単なるアカウント配布から一歩進めて、学びを継続・実践・交流」する場を地域において創出しており、住民・企業双方の学び意欲を高める仕掛けと考えられる。

図表 3 ユーザー交流会の様子



出所：奄美市ホームページ「オンライン学習『Schoo』ユーザー交流会の開催について」

4 成果・課題

(1) 本取組の成果

Schoo の導入と利用促進策を通じて、島内5市町村ではオンライン学習が住民・事業所に広がりつつあり、学びの機会拡大や学習行動の変化が見られる。

第一に、離島における学習アクセス格差の緩和が挙げられる。島外に行かずに専門知識に触れられる環境が整い、時間や場所に制約のある層でも学習が可能となったことは、オンライン学習ならではの利点である。

第二に、学び直しを通じたキャリア形成の可能性が広がっている点である。講座の幅広さにより、住民が興味や必要に応じて学習内容を選択でき、業務改善やスキル習得につながる例が生まれている。

第三に、デジタルリテラシー向上の環境が整備されつつある点があげられる。合同研修や交流会はオンライン学習の認知拡大に寄与し、学びを中心とした地域内のつながりも形成されつつある。

参考となる具体例として、Schoo 社が奄美大島在住者を対象に実施したインタビュー¹がある。デザイン学習をきっかけに受講を開始し、その後デジタルマーケティングなど幅広い分野へ学びを広げ、現在は島内で EC サイト運営などに取り組んだエピソードが紹介され、「Schoo が学びの入り口になった」「自分のペースで取り組める」と述べている。オンライン学習が離島の暮らしとキャリア形成に資することを示している。

これらの成果は、本取組が地域における学び直しの基盤として機能し始めていることを示唆している。

(2) 課題と今後の展望

本取組においては、希望者に対して随時アカウントを発行できる体制は整備されているものの、学習サービスの存在や具体的な使い方が十分に行き届いておらず、利用が一過性にとどまりやすいという課題が見られる。学びを単発の受講で終わらせるのではなく、日常的な学習習慣として定着させていくための導線づくりが求められている。

また、事業所における活用は一定程度進展している一方で、特に限られた人員で運営される小規模事業者においては、受講時間の確保や社内への展開が容易ではない状況にある。このため、業務上の課題と直結するテーマ設定を行うとともに、短時間で受講可能な形態など、参加しやすい運用面の工夫が必要である。

さらに、オンライン学習は移動負担を軽減できる利点を有する反面、端末操作に不慣れな利用者にとっては、心理的・技術的な障壁となるおそれがある。登録から視聴、継続利用に至るまでの各段階において、利用者を支えるための配慮と支援が重要である。

¹ Schoo 公式 note : <https://note.schoo.jp/n/nd2bb588b2b4e>

奄美市の担当課は、こうした課題を踏まえ、既存の仕組みを活かしつつ、情報提供の方法や運用面を丁寧に整備することで、利用の定着を図っていきたいとしている。

具体的には、登録から受講に至るまでの手順や具体的な活用例を分かりやすく示すことにより、学習を開始しやすい環境を整えるとともに、小規模事業者においても導入しやすい短時間・目的別の受講形態を提示することで、業務との接続をイメージしやすくする環境の整備を検討している。あわせて、端末操作に不安を有する利用者に対しては、相談窓口等を通じて必要に応じた初期支援が得られる導線を明確化することで、受講に伴う心理的・技術的なハードルの低減を図りたいとしている。

これらの改善を継続的に行うことにより、離島地域における学び直しの基盤として、運用の質の向上が期待される。

関連・参考資料

奄美市ホームページ「株式会社 Schoo との包括的パートナーシップ協定の締結について」

<https://www.city.amami.lg.jp/dx/schoo/kyoutei.html>

Schoo 公式 note「離島からリスキリング。奄美大島で働く人たちの学びと仕事」

<https://note.schoo.jp/n/nd2bb588b2b4e>

奄美市ホームページ「オンライン学習サービス『Schoo』体験コーナーの設置について」

<https://www.city.amami.lg.jp/dx/schoo/taiken.html>

奄美市ホームページ「島内5市町村合同新卒・若手向け研修の実施について」

https://www.city.amami.lg.jp/dx/schoo/event_02.html

奄美市ホームページ「オンライン学習『Schoo』ユーザー交流会の開催について」

https://www.city.amami.lg.jp/dx/schoo/event_05.html

奄美市「オンライン学習サービス『Schoo』の概要」

<https://www.city.amami.lg.jp/dx/schoo/top.html>